2016 明治安田生命 J2 リーグ 第 27 節 vs. カマタマーレ讃岐

8/7（日）18:00 kick off　@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

岐大通 2016 season10

2016J2

■順位表■第26節（暫定）
勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

1*	1	札幌	56p	+25	41	16	H●	A●
	2	松本	51p	+17	39	22	H●	
	3	C大阪	48p	+10	38	28	H●	
	4	岡山	46p	+12	38	26	A○	
	5	清水	44p	+25	49	24	H△	A●
	6	京都	43p	+9	35	26	H●	
	7	町田	40p	+7	33	26	A△	
	8	山口	39p	0	38	38	H●	
	9	千葉	33p	+1	36	35	A●	
1*	10	長崎	33p	−2	29	31	H●	A●
	11	徳島	32p	−3	26	29	A○	
1*	12	愛媛	32p	−4	20	24	A○	
1*	13	横浜FC	31p	−3	28	31	A○	
1*	14	水戸	30p	+1	27	26	H○	A●
	15	山形	29p	−3	26	29	H●	
	16	讃岐	29p	−7	26	33	A●	
3*	17	熊本	29p	−9	24	33	H●	
	18	東京V	29p	−10	23	33	A△	
	19	岐阜	24p	−19	26	45	---	---
	20	群馬	23p	−12	28	40	A●	
	21	金沢	23p	−16	23	39	A○	H●
	22	北九州	22p	−19	26	45	H○	

注：*のついたチームは消化試合が
前の数字だけ少ない（1*は１試合）

次回HomeGame

第29節 vs.徳島ヴォルティス
8/14（日）18:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel：058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけど‥
心の花が咲く‥
何も無い店だけど･･･
心　癒される‥
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町３丁目（木ノ本公園東）

today's guest：カマタマーレ讃岐

2015 J2 12勝15分15敗　勝ち点51：第16位

直近の対決と結果

2016/04/23
J2 - 07節@ピカスタ

讃岐 3-2 岐阜
鈴木ブルーノx2
scored.

ここ３試合の公式戦の結果

FC岐阜	カマタマーレ讃岐
2016/07/31　J2 - 26節@アイスタ 清水 2-0 岐阜	2016/07/31　J2 - 26節@ピカスタ 讃岐 2-1 山形
2016/07/25　J2 - 25節@札幌ド 札幌 5-0 岐阜	2016/07/24　J2 - 25節@ピカスタ 讃岐 2-1 C大阪
2016/07/20　J2 - 24節@長良川 岐阜 0-1 金沢	2016/07/20　J2 - 24節@西京極 京都 1-0 讃岐

●2016 年Ｊ２リーグも折り返しを過ぎ､最下位･金沢を迎えて行われた 7/20（水）のホーム戦。これまで４連敗中と調子を落としているＦＣ岐阜は、この試合で勝たないと残留争いに巻き込まれてしまうという危機感のある状況だったが、わずかなミスから失点してしまい、その後はゴールを取り返すこともできずに０－１での敗戦。これで５連敗して順位は 10 位から 18 位に急降下。チーム低迷の責任を問われたラモス監督は２日後の 7/22（金）に解任。新監督には、吉田恵コーチが昇格・就任することとなった。
早速戦術の立て直しに着手した吉田監督だったが、しかし指揮を執ってわずか４日で迎えたアウェイ 7/25（月）第 25 節・札幌戦は如何ともしがたく、９戦無敗と好調の首位・札幌の攻撃を防ぐことが出来ず、０－５での敗戦。続く 7/31（日）第 26 節・アウェイ清水戦では、前節よりは戦術の浸透が図られたように思われたものの、得点数トップを誇る清水のエース・＃９鄭大世の個人技によって２ゴールを決められ、０－２で敗戦。
これで、クラブ史上ワーストの７連敗。順位は 19 位ながら、最下位・北九州との勝ち点差は２、21 位・金沢および 20 位・群馬との勝ち点差もわずかに１と、残念ながら今シーズンも厳しい残留争いに巻き込まれてしまった。18 位・東京Ｖとの勝ち点差が５と少し離されていることから、当面は４チームでの残留争いを生き延びることが重要だ。
この７連敗の内容だが、合計 15 失点というのも目立つが、５試合無得点という点にも注目しなくてはならないだろう。ボールを奪って守備から攻撃に移る時の、選手たちの連携や約束事に乏しく、打つ手を欠いたり時間がかかって相手に守備を整える時間を与え、再び安易にボールを奪われている場面が目立つ。ここを改善しなくては、いくら守備面を強化しても勝利には繋がらない。もちろん改善は見えてきているので、さらなる戦術の浸透を期待したい。そして勝利こそが、選手たちの自信に繋がることだろう。
さて、吉田恵・新監督が率いるＦＣ岐阜、ホーム初戦の対戦相手は、現在 16 位のカマタマーレ讃岐だ。昨年は堅守を活かしてＪ２最少失点で 16 位。Ｊ参入３年目の今年は、昨年と比べれば失点がやや目立つものの、それでも前々節にはセレッソ大阪を、前節にはモンテディオ山形を、それぞれ２－１で破って連勝と勢いに乗っている。現在のＪクラブでは最長７年目となる北野監督体制の“積み上げ”は本物だ。
通算対戦成績は､ＦＣ岐阜の３勝２敗・８得点８失点。ホーム戦では２勝・４得点１失点と相性が良い。昨年のホーム戦・3/15（日）第２節も＃24 難波宏明の得点で１－０で勝利しているが、今年のアウェイ・4/9（土）第７節には､＃29 鈴木ブルーノの２ゴールで追いついたものの、ロスタイムに＃33 木島良輔に突き放され２－３での悔しい敗北を喫している。今節は是非ともホームの利を活かしてほしいところだ。
讃岐の最注意選手は、現在６得点の＃19 仲間隼斗だろう。前節の山形戦でも決勝ゴールを挙げ、気をよくしているはずだ。また＃７永田亮太、＃11 馬場賢治そして＃33 木島良輔には前回ゴールを決められており、彼らにも注意が必要だ（なお､ＦＣ岐阜に 06 年～ 09 年に所属していた＃10 高木和正、06 年～ 07 年所属の＃13 木島徹也は、負傷によりベンチ外の模様）。また岐阜では＃28 水野泰輔が累積警告で出場停止、代役となる選手の活躍を期待したい。
7/29（金）に 2016 シーズンの第２移籍期間が終了し､ＦＣ岐阜も鳥栖から期限付き移籍で＃37 崔誠根を獲得し、また＃３ウェリントン・ロシャとの契約を解除した。逆説的に言えば､「このメンバーで今シーズンを最後まで戦い抜く」ということだ。僕らサポーターも、クラブ・チームと一体となって、この逆境を戦い抜こう。ホーム・長良川では４ヶ月以上も未勝利だけれど、最後までＦＣ岐阜の勝利を願う、僕らの拍手と声援で、選手たちの背中を後押しをしよう。僕らには、それができるはずだ。（ささたく）

JUL
名鉄
JR
「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜･名鉄岐阜駅から
徒歩３分。
休：月曜日

投稿募集！！
アドレスが変わりました
gidaidohri@gmail.com

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）8/7号　編集発行：『岐大通』製作委員会　今号の製作担当：ささたく＆吉田鋳造

【第 24 節】岐阜 0-1 金沢

●水曜のナイトゲーム。京都戦には来れなかったので、あの「気持ちが正面からぶつかって火花を散らした」好ゲームの熊本戦以来のナマ観戦。いつもより１時間近く早く出勤してフレックスタイムを活用して“早上がり”して長良川へ。結論から言うと「がんばって早上がりしてでも観に行ってよかった」という試合だった。ネガティブな意味で、のだが……。
気になったのは、前半 30 分あたりのあまりに軽い守備からの失点シーン。失点そのものは見慣れている（苦笑）からいいとして、選手たちから「何やってんだよ！」的な怒りも「まだまだいける！取り返そうぜ！」的な内部的激励もなく、「ああ、またやられたね……」という、まるで『サポーターがユニを着て試合をしている』ような雰囲気だったのだ。
失点してからは、観戦仲間とはほとんど目の前の試合について話をしていなかった。もちろん、同点を望んではいたし逆転も望んではいた。しかし、試合内容自体は「相手が金沢だからこの点差で済んでいる」と言っていい程度のシロモノ（失礼な表現かもしれないが、金沢サポからも「この岐阜を相手に１点しか獲れないのか……」という感想をもらっているので“お互いさま”だ）、同点→逆転の希望は、当選番号発表前の宝くじを手にニヤニヤする程度の現実性しかなかった。まったく試合に入れずに「チャンスの終点」にもなっていない右 SB。１点を追う展開だということをまるで理解ところか認識していないかのように、「ゴールを奪うよりボールを失わないことだ」とバックパスを繰り返す中盤。そして、そんな選手たちのプレーに対し、何の変化も与えられない監督。だから、観戦仲間との話は「果たして、この試合内容でフロントはラモス監督を“切れる”のか？」がテーマになった。
連敗スタートの熊本戦は結果はともかく内容的には「大満足」とも言える試合だった。それから４試合でわずか１得点。田中達也が「単騎駆けこそ戦（いくさ）の華よ！」と前田慶次ばりにサイドを駆け破るだけの攻撃。昨年は「ヘニキさえ剥がせば」と相手サポにも言われてしまった守備は、そのヘニキ役もいないので「わざわざ剥がす行為すらいらない、普通につなげば勝手に剥がれる」。そして、監督はこういう状況になった際に『“チームを修正する”という性能はまったく装備していない』ことを２年間かけてぼくらはきっちり教えてもらっている。もう、目の前の試合に「希望」を見出すのが困難なことに、ぼくらは“慣れて”しまっていた。
クラブは現状をどう捉えているのか。“下降線”なのは誰が視てもわかる。問題は「リニア（等速度）で斜め下がり」と認識しているか、「放物線（等加速度）を描くように速度を上げつつ落ちている」と認識しているか。等加速度での降下を、別の表現では『自由落下』とも言うのだが。（吉田鋳造）
●ずいぶん前の話になります。W杯の 2002 か 2006 の頃のことでしたか。あるスポーツ専門誌にとあるスポーツ・ライターのコラムが掲載されてて、その細かい内容はほぼ忘れてしまったんですが、ナゼか、そのタイトルだけがよみがえってきて、ただただ困惑していました。「冷たい怒り」というのがそのタイトルだったんですけど、正直なところ怒りよりも呆れる他はないというべきか。ホント、お話にならない。まったくもって論外。ひたすら、悲しくてしかたがないです。現状について、積み重ねがないことについて、今まで監督の責任と言及していたけれども、それだけじゃありませんでしたね。
もうね、後半は攻めることができた……とか、チャンスが……とか関係ないです。それとも、何か、長良川では金沢に勝っちゃいけないという理由でもあるのかな？昨季の３月の金沢戦よりも戦えてませんでしたよね。この試合の意味を、ちゃんとわかって臨みましたか？相手のエースを、いや、そうじゃなくてもボールを持ってる相手をアノ位置で放す守備なんかありえないと思います。あんな位置で手を上げて「ファウルしてません。」的なアピールは何のため？それくらいなら、身体をぶつけに行って倒してＰＫのが納得できます。股の間を抜かれたＧＫも屈辱だったでしょう。あれが、キレイに股間を抜けてたり、右足に当たってればゴールインしなかったのに、よりよって左足に当たるとは。でも、止められませんでしたか？あと、かさにかかっての攻撃体勢。スタジアム全体がゴーか。ボールもらってビビってる選手は、ベンチにも入る意味すらないですよ。それから、試合を通して流れに入ってなかったＳＢ。ダイレクトでクロス！という場面でわざわざトラップして、そのうえ利き足でない方に持ち替えてからのクロス。向こうのＤＦが迎撃態勢が整えてから入れてどうするんですか？オマケに味方とのワンツーにも反応できない等、ことごとくウチの流れ止めてましたね。そして、そういう選手を交代させられない、見極められないベンチ。大事な、今季を占う大事な試合でこんな内容ではどうしようもありません。これで、「練習を見に来て！」と訴えられてもね。練習と試合は別物ですか？練習の延長が試合ではないんですか？と問いかけてみますか。
でも、コレでハッキリしました。また、今季も恒例の戦いが始まっただけです。とにかく、クラブが潰れない限り、どんなカテゴリーでもそばにいることだけは決めてるんで、できる限り参戦しますよ。こんな試合をモニター越しに見なければならないなんてたまりませんから。とりあえず、目標は 21 位。入れ替え戦はキープしてもらえませんか？幸い、まだ下には４ついます。最後に勝ち点１でも、得失点差１でも上回ってくれればイイです。確信は持てませんが、そうなるよう願うしかありません。
いや、しかし、ホントにガッカリしました。熊本に負けた時は「向こうの方が執念があった。背負ってるモノが違った。」なんて思ってましたけど、そうじゃなかったんですね。まさか、今の金沢に劣るなんて。それも、気持ちで。戦う姿勢で。繰り返しますが、この試合の意味もわからないようじゃ、今後どうにもならないと思うんですけど、どうなんでしょうか？本当に。それとも、何か試合に集中できない出来事、心配事でもあったんでしょうか？（ぐん、）
●今年は少し早く始まってしまったものだなと思いながらも、しかしＪ２残留をかけた最下位・金沢との“直接対決”、そんな気持ちで臨んだ今節の試合。平日・水曜ナイターだというのに４，０８１人のサポーターが集まったのは、そんな思いをみんなが抱いていたからだろう。ゴール裏のサポーターたちは、今季はじめて肩を組み、選手たちを迎えた。飛び跳ねて、選手たちを鼓舞した。それが伝わったと思っていた。
ところが、だ。どうも僕には前節・アウェイ水戸戦と代わり映えのしない試合展開に見えてしまう。確かに序盤から失点することはなく、守れている。だけども、やはり攻撃には迫力がない。そうこうしていると、相手ＧＫのＦＫから、ポケットのように空いたスペースに入り込まれ、ＧＫ＃21 高木義成の股を抜けたボールがゴールに吸い込まれ…失点。目の前で起きた出来事ながらも、僕は何が起きたのかを理解するまでに少し時間がかかってしまった。どうして、あんなに簡単に失点するかな…（溜息）。これで攻めなくてはならなくなった岐阜だが、連携ができていないので足元へのボールばかりで動きが遅く、相手に簡単に防がれてしまう。そしてサイドアタックを仕掛けようとしても、失点が怖いのかサイドにいる選手は相手陣地深くまで突破せずにアーリークロスを放り込むだけ。選手たちがサイドに密集してしまっているためにスペースも埋まりパスコースが限定され、効果的な攻撃になるどころか、何度も金沢の危険なカウンターを浴びてしまう。残念ながら、ホーム戦で見せるような内容のサッカーじゃない。「点を獲るんだ、逆転するんだ、勝つんだ！」という気迫が、工夫が伝わってこない、単調なサッカー。こんなサッカーを見せられて５連敗、そして残留争いに“巻き込まれた”というよりは“みずから飛び込んでいった”というべきな結果に、さすがに岐阜のサポーターたちも声を荒げた。このままで本当に大丈夫なのか…。（ささたく）

【第 25 節】札幌 5-0 岐阜

●完敗。なんというか、個人の技量もさることながら、組織的な戦い方ができるのできないのとではこんなに違う。それを目の当たりにした思い。
これで、残留争い真っ只中へ身投げです。ただ、感覚的には昨季の大宮戦。やろうとしていることをやろうとしていた。そんな気がします。攻撃は、それなりに出来てた。あとは決めるかどうか。難を言うなら、最初から臆さずやってよ、と。それをキックオフからやってくれたらね。ま、問題はこれからです。守備に関して言えば、向こうの堀米にウチの右サイドがチンチンにされて、宏矢が引っ張り出されて、引きずられて、空いた逆サイドに振られて真ん中空いて……みたいな先制点。結局、堀米だけでなく、左サイドのマセードにも同様にやられてしまった。終始高い位置を取る両サイド・ハーフに好きにさせてしまって、守備をはがされたところで真ん中から、という感じ。失点後は思いっきり５バックにして、少し耐えたけれども、ならばと放たれたミドル。詰められなかったか？という思いもあるし、あそこで交わされたらという気もする。そこは一対一で負けてほしくない。でも、シュートを撃たれた時点で決まりだった。そして、３点目で大勢は決した感あり。
ただ、後半から出場した瀧谷も、この試合では相手ＤＦに勝ってたシーンもあったし、田代のヘッドを含め一点でも決めていれば……とも思う。それでも、５点は取られ過ぎ。今季のワーストを更新してしまったが、６点め、７点めを何とか免れたシーンもある。５点で済んでよかったとも言えるかな（苦笑）。監督交替後の、たった二、三日で結果が出せるんなら、誰も苦労はしない。これで、得失点差が再びトップに並んでしまったが、膿を出し切った。そう思っておこう。正念場はこれからだ！（ぐん、）
●ホーム金沢戦の敗戦による監督交替の発表から、わずか４日。中３日のアウェイ、リカバリーや移動時間を考慮すると、ほとんど吉田監督が戦術指導する時間はなかったハズ。だから、そんな劇的な変化を僕自身は期待していなかったし、今節のスタメンがほとんど変わらない顔ぶれなのも、納得していた。
でも、吉田監督に失礼ながら少し意外だった（苦笑）のは、わずか４日なのに「あれ？チーム戦術が変わってる？」って感じられたことだった。明らかに、ボールを奪ってから攻撃に転じる動き、ボールの出し方が違う。むやみに選手がサイドに重なって渋滞になるのではなく、シンプルに縦にボールを蹴ったり、中央突破を図ったり。７戦無敗中の首位・札幌を相手にしているのに、最下位・金沢を相手にした前節よりも、得点の匂いがする攻撃。よく“攻撃はセンス”とも言われるが、攻撃の戦術について、少し考え方の整理をして選手たちの悩みが解消されてきたのかもしれない。逆に“守備は組織”と言われるように、守備面での変化はあまり感じられなかった。まあ首位・札幌しかもホーム開幕戦で０－４と惨敗した相手だっていうことも理由なんだろうけれど…（苦笑）。特に感じたのは、ＤＦとＧＫの間で「この場面はミドルを撃たせてもＧＫが準備しているから無理しなくても大丈夫」「この場面はリスクを負ってでも激しくボールに寄せていく必要がある」「ここがボールの奪いどころだ」等といった、守備の共通意識に欠けていたような気がする。だから、次々と遠目からでもシュートを撃たれ失点を重ねていくＦＣ岐阜。こればっかりは一朝一夕で簡単に出来るものではないから仕方ない面もあるけれど、それでも早急に改善して欲しいところだ。
結局はホーム戦よりも酷い、今季初の５失点を許しての０－５で敗戦。しかし、＃７ジュリーニョにハットトリックを献上しても、“天敵”＃13 内村圭宏に２ゴールを決められても、そして＃44 小野伸二の 11 試合振りとなる“顔見世興行”まで許しても、不思議と僕には絶望感はなかった。札幌戦の敗戦は僕にとっては織り込み済みだったし、一方で希望も見えた。今後のチームの成長を信じて最後まで応援しようと思える試合だった。（ささたく）

【第 26 節】清水 2-0 岐阜

●夏は真っ盛り。そんな青空が広がっている。なのに、スタンドから眺望は絶景のはずの日本平・アイスタで、肝心の富士山には雲がかかって全く見えないというアウェイのナンチャラ。途中で、僅かに稜線は見えた。それだけが救い、かな？それにしても、このスタジアムにリーグ戦で訪れることになろうとはね。日当たりが良好すぎるきらいを除けば、アウェイ側のスタンドは近くてありがたい。そして、スタンドの陰にいれば、風が吹き抜けて気持ちがよい。スタグルもウマいし、後は試合さえ……。
試合の序盤を見た感じは 5-4-1 か？前半イーブンで行ければ……と思ったのは、たぶんボクだけではないだろう。監督の胸算用も同じだったように思うし、実際ギリギリだがミッションをこなせそうに見えた。だが、守備的にやってる方がアノ位置でミスしたら、ね。ホント、もったいない失点。とはいえ、引いて守る戦術を取ったんなら 100%、ことによると 120%ぐらいに完璧な試合運びをしないと結果は出せない。先制されたらプランがオジャンになってしまう。後半も最初から押されっ放しで、シュートも途中出場のレオロシャが打つまでゼロ。で、レオロシャのシュートはバーに弾かれ、テセのシュートはバーに当たって決まる。こんなもんですよね（苦笑）。
でも、テセの２点目はゴール位置の確認といい、敵ながら見事な、狙い澄ましたゴールというヤツ。そこから先はがんばってくれたけど、少なくとも同点に持ち込める雰囲気は作れなかった。
なんとかイイところ探しをすれば、後半から出て来た潤の上がりが案外よかった。あ、いや、ほとんどボールを出してもらえなかったけど、可能性はあったような気もする。磐瀬のシュートも悪くはなかった。ソングンが足を吊らせたのは仕様らしいので仕方ないかな。あ、これはイイとこじゃないか（苦笑）。
ただ、清水との大きな違いは、マイ・ボールを大切にできるかどうか、だったような気がする。余裕があったんだろうが、きちんと味方につなぐ清水と、ただ闇雲に、とは言わないが、「何とかしてくれ！」的に蹴り出すだけのウチとの差。そんなウチの選手にはあの翼クン（青木じゃなくて、大空）の名言を贈りたい。「ボールは友達」。大切にしようよ。
とりあえず、金沢、群馬、そして北九州がつきあってくれたおかげで順位は変わらず。その代わり、すぐ上だったクラブが勝ったため、勝ち点は少し離れてしまった。下位４クラブの残留争いに突入したのかもね。そういや、７月はとうとう勝ち点ゼロだった。さすがにキツイが、それでも目の前の試合をひとつずつ大事にしていくしかない。８月も辛抱が必要だろうけど、今まで以上に声援を送ります！（ぐん、）
●前回の札幌戦から６日。やっとルーティンの練習日程を経過して、吉田監督の目指すサッカーが少しは浸透してきただろうか？と思いながら臨んだアウェイ・清水戦。札幌にはホームで０－４、アウェイで０－５と惨敗したけれど、清水にはホームで１－１。上位の強いチームではあるけれど、勝機がない訳ではない相手。
１週間が経ち、守備面も変化が見られるようになった…のかな？もちろん相手が変わっているからかもしれない（苦笑）けれど、守備は安定していた…しかし、そこを撃ち破ったのは、清水のエース・＃９鄭大世。ゴール前のショートクロスをダイレクトで合わせられてしまっては、ちょっと厳しいよね…（溜息）。失点を警戒していたためか、逆に攻撃はあまり活性化していなかったけれど、後半途中に＃10 レオナルド・ロシャを投入すると、ボールを自在に操ってチャンスを作り、クロス

バーを叩くミドルシュートを放つ。あれが入っていれば、また試合展開は変わっていたと思うけれど、その直後に再び＃9鄭大世の、後ろを向いてボールを受けた直後に撃った反転シュートが岐阜のネットを揺らす。相手ながら天晴れなゴラッソだった。
クラブ史上、ワースト記録となるシーズン７連敗。だけど、今シーズンの開幕でも２連敗したことを思えば、吉田監督に交替しても札幌・清水に連敗することは、僕はある程度覚悟していた。それに、監督交替という“切り札”をクラブが切った以上、これからは残留争いの中、覚悟を決めて最後まで選手たちを信じて応援するしかない、とも思うのだ。この危機も、僕らのクラブはきっと乗り越えられる…そう信じて、気持ちも新たにして、声援を送ろうと思っている。（ささたく）
●残念ながらテレビでの観戦となったが、「センターＦＷの仕事が出来る選手がいるか、いないか」で決したような試合だった。結果論ではなく、「センターＦＷの仕事が出来る選手がいる」ことで、チームがそのＦＷが結果を出すにはどうすればいいか？の設計図を描いて試合に入れる清水、そしてそれに応えるＦＷ鄭大世。特に２点目は、自分がゴールに対してどの位置にいるのか、右に何度回転して何度の角度でシュートを打てば枠に行くのか、「後ろを向いてボールを受けた段階で」わかっているかのような……というか、たぶん彼はそこまでわかってプレーしているのだろう。『ラベルが違う』とは、このことだ。残念ながら、岐阜にはそういう選手はいない。設計図そのものが違ったのだ。
でも、この７連敗はぼくは「ラッキー」の産物として捉えている。金沢戦の敗戦で５連敗となり、クラブは監督を更迭した（あえてこう言う）。そして強豪の札幌→清水と連敗。果たして、対戦順が「金沢→札幌→清水」ではなく「札幌→清水→金沢」だったら、どうだったろう。同じように７連敗したとして（たぶんするだろうし）、札幌戦（５連敗目）や清水戦（６連敗目）でクラブは監督を更迭出来ただろうか。「相手は首位だ」「相手は昨年まで J1 の強豪だ」をエクスキューズ（言い訳）に更迭を先延ばしにしていたのではないか。そして、金沢戦（７連敗目）でようやく手を付ける。問題への“着手”が２週間遅れることになる、というわけだ。
それに比べれば、同じ７連敗でも金沢戦で「手を打って」から迎えた、金沢戦のところで書いた『等加速度で（速度を増して）落ちていく』、ワイヤーの切れたエレベーターのような落下の速度を少しでもブレーキをかけてくい止める、その策を打っている上での“連敗の積み重ね”だから、まだ評価が出来る。
もちろん、「手を打つ」ことは『目的』ではなく『手段』であり、『目的』は「チームの降下を止め、切れたワイヤーを修理して再びエレベーターが上がれるようにすること」だ。今日の讃岐戦は、その“修理”状況を確認する試合となる。果たして実際はどの程度の“修理”が必要なのかを知る、という意味も含めて、だ。（吉田鋳造）

【ユース】G1 リーグの結果

●我らが FC 岐阜ユース U-18（以下 FC 岐阜ユース）は今年 G1 リーグに参加しています。7/23（土）に第９節・各務原高校戦があり、１対１の引分けでした。よって第９節終了時点で通算５勝４分０敗の勝点 19 で３位となっています。
この後はリーグは暫く中断していて、次の試合は 8/27（土）の第 10 節・岐阜工業戦が予定されています。良ければ応援に行ってやってください。
頑張れよ、応援しているからな！ FORZA ！ FC 岐阜ユース！！
※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やチームの公式サイトで確認して下さい。
（シュナ）

8/4 現在の、J3 順位表。

●もはやこの時期の“恒例行事”となってしまった、『岐大通』での「J3 順位表」の掲載。今年はなんとか８月に入るまで掲載をガマンできました……嘘です。７月下旬にＦＣ岐阜のホームゲームがなかっただけです（笑）。
●この試合の前日（8/6）に１試合（鹿児島戦）があるので、その結果は反映していません。また、熊本地震と強風（というより暴風）の影響で延期になった試合があるため、こちらも J2 リーグと同じく“暫定”の順位表になります。なお、今季の J3 リーグは全 30 試合です。

自動昇格	1	栃木	19	試合	42p	+13	23	10	★保有
入替戦	2	鹿児島	18	試合	33p	+10	24	14	●申請中
	3	大分	19	試合	33p	+9	27	18	★保有
	4	長野	19	試合	33p	+7	18	11	★保有
	5	富山	18	試合	30p	+1	21	15	★保有
	6	秋田	19	試合	28p	+4	21	18	
	7	相模原	18	試合	28p	0	18	18	

●秋田は来季の J2 ライセンス申請を見送った旨の報道がありました。相模原はスタジアムの照明が未設置で、来季までに解決はしなさそうなので、J2 ライセンス申請していないはずです。個人的には、鹿児島には J2 ライセンスが下りる公算は大きいと考えています。
●J2 と J3 の入替は、毎年のことですが J3 側の J1、J2 ライセンス（以下「J2 ライセンス」とします）が大きく影響します。

① J3 の１位、２位がともに来季の J2 ライセンスを保有している場合
→J2 の最下位は自動降格、J2 の 21 位は J3 の２位と入替戦に臨む（2014、2015 シーズンがこのパターンでした）
② J3 の１位のみが来季の J2 ライセンスを保有している場合
→J2 の最下位は自動降格、J2 の 21 位は残留
③ J3 の２位のみが来季の J2 ライセンスを保有している場合
→J2 の最下位は J3 の２位と入替戦に臨む、J2 の 21 位は残留（2013 シーズンがこのパターンでした）
④ J3 の１位、２位がともに来季の J2 ライセンスを保有していない場合
→J2 と J3 の入替は行われない。

現在の各チームの力関係から考えると、秋田や相模原が上位を全マクリして２位以内に入ってくる可能性は高くありません。鹿児島に J2 ライセンスが下りることを前提にすると、①以外のパターンになる可能性は考えにくい。J2 の 21 位は入替戦まわりになる、と考えた方がいいでしょう。
●さて、読者の皆さんは「で、J3 に落ちるとどうなるの？」というところが気になるでしょう。スカパー！などのテレビ中継については、報じられているとおりに来季からのリーグとの契約会社の変更でどうなるか（J3 リーグの試合でも全部中継があるようになるのか？など）不明な点が多くてわかりませんが、私は縁があって今季 J3 の試合を５試合観戦しているので、試合の雰囲気などをお伝えします。
まず、J3 クラブのサポさんから聞いていた通り、圧倒的に「アウェーのサポの来訪」が少なくなります。クラブの現金収入としては痛いでしょう。上で相模原のところでも触れましたが、J3 は「ホームスタジアムに照明の設置が求められない」ので、夏場でも午後３時キックオフになったりと、試合環境もかなり厳しくなります。あと、一番大事なのは「あの大分をもってして首位争いに入れない」。自動で J2 に戻れるのは優勝チームのみ。「落ちても１年で（J2 に）戻ればいい」なんて、妄想です。なにせ、鳥取は 16 チーム中 15 位なのです。

今後、『岐大通』ではＦＣ岐阜の J2 残留が決まるまで、J3 情報を掲載していきます。（編集人：吉田鋳造）

【特集】監督交代について

●『岐大通』読者の皆さんもご承知の通り、ＦＣ岐阜は 7/20 の金沢戦の敗戦をもってラモス瑠偉監督との契約を終了し（解任なのか契約解除なのかはわかりません）、吉田恵コーチの監督就任を発表しました（その後、ラモス監督と同時に就任した田口貴寛ヘッドコーチの退任も発表になっています）。そこで、『岐大通』ではこれまでの「ラモス体制の２年半」「これからの吉田体制」を含め、意見募集を行いました。
（編集担当：吉田鋳造）

_/

●チーム力、連携という言葉が出て来て、とても嬉しい。
あと札幌戦に向けてのコメントも現実的でとても好印象。
鳥栖の件であまりイメージは良くないが、やりたいサッカーが試合を見て感じられる指導をするならば、長期政権で良いと思う。
まずは残留！そして中位へ！（アキ）

●初めて投稿します。
監督交代の件ですが、個人的見解としては遅すぎるけど、よく決断してくれたと思います。本来ならば昨年の今頃に見切りを付けるべきだと思いますが、ラモス監督大好きな行政や後援会の顔色を伺うと踏み切れなかった事、後任が見つからない事などの影響があったのだと思います。
ここ最近のサッカーも前にボールが運べない、フラストレーションの溜まる内容が多かったように感じます。個人の技術に頼り、ボールを持ってない選手の動きが乏しく(恐らくチームとしての決め事が無かったと感じる)パスの出し所が、横や後ろしかなく攻めきれない、見ててつまらないサッカーとなっていました。
吉田監督となり劇的に勝ち点を稼げるようになるのが理想ですが、相手のあるスポーツですしそんな簡単な事では無いと思います。が、今までと違う岐阜のサッカーが見れる事に期待をしています。その上で勝ち点も稼げれば嬉しいです。
今はチームに関わる全ての人が苦しい時期ですが、今までも楽しい時期よりも苦しい時期の方が長かったので、いつか訪れる歓喜の時を信じて応援したいですね！
ラモス監督には、サッカー監督として思う所はたくさんありますが、環境の整備やファン層の拡大については多大な影響を与えて下さり感謝しています。
年内は岐阜にいらっしゃるそうなのでお見掛けする機会があれば直接お礼を言いたいです。お疲れ様でした！そして、ありがとうございます。（匿名希望）

●2016 シーズンの我が軍に達成してもらいたかったことが個人的に二つあった。一つはＪ２残留。そしてもう一つはラモス監督との契約の満了である。
シーズン途中での契約解除という点はいろんな意味で想定外ではあったが、望んでいたことの一つが達成された訳で個人的には非常に喜ばしく思っている。
今回の「岐大通」には、ラモス体制において成し得たこと成し得なかったことについて様々な見解が書かれていることだろう。
成し得たこととして挙げるなら監督個人の知名度を生かした広告効果の上昇による集客の増加およびクラブハウス建設への貢献。あとは特定選手の積極的起用による選手個人の成長への寄与あたりだろうか。（ただ個人的には選手個人の成長への寄与は別段ラモスでなければ成し得なかったとは思っていない。仮に他の監督が指揮していたとしても特定選手を積極的に起用していれば一定の成果は得られていたと思われる。ぶっちゃけ試合に出てれば選手個人は伸びる。）
当然、僕の心中にもラモス体制において成し得たことを評価しなくてはと思う部分はある。
ただ心のどこかでそう思いながらも素直にそうなれないくらいに、僕はこの２年半の我が軍のサッカーにうんざりしていた。勝てないからではない。単純につまらないのだ。それもものすごく。
サッカーというスポーツは偶然性に左右されやすい。だからこそ僕は必然性を求め高める姿勢をピッチ上に求めている。これは僕がサッカーというスポーツを見続けている理由と言ってもよい。
僕が見たいのは勝敗という結果ではない。必然性を求め、時には彷徨いながらも一歩一歩進んでいくことで偶然性という呪縛を振り払わんとする過程なのだ。これは別段高いレベルのことを要求しているとは思わない。時に偶然性に翻弄されながらもその中で必然性を追い求める姿勢を体現できているクラブは、プロだとかアマチュアだとか無関係にいくらでもある。その点において、Ｊ２というカテゴリーにおいて残留を第一目標とするクラブが志向するサッカーとしてはお粗末だったと言わざるをえない。
勝点１を取りにいく狡猾さも９０分を通したゲームプランも攻撃時のボールの経路の整備も最低限の守備組織の構築もなにもかもなされないまま過ぎていく日々。それでもそこそこの結果さえ出ていれば多分ある程度は目をつぶれただろう。だがそれすらもいつしかなくなった。選手の自由な発想を尊重していたといえば聞こえはいいだろうし、選手の受けもよかろう。ただそれによってもたらされたのは売り物であり見せ物であるサッカーそのものの質の不安定化だけだった。
確かに稀に心を震わせるようなゲームもあった。しかし次のゲームには、その時に見せてくれたものの影も形もない。まるで技術も発想も貧困なバンドの即興演奏を見せられているような気分だった。
ここで敢えてスポーツエンターテイメントを売り物とする企業であるＦＣ岐阜とその重要な担い手である選手を含めたチームスタッフに問いたい。
「勝敗以外の心に刺さる何かをピッチ上で表現できていたと胸を張れますか？」と。
今の僕の心境を極端に言えば勝っただの負けただの残留だの降格だのそんなものはどうでもいい。今一度表現者としての矜持を持って心に刺さるような何かをピッチ上で表現して欲しい。ただただそれだけなのだ。（マツヒラ）

●7 月 20 日のツエーゲン金沢戦での敗戦の翌々日の中日新聞と岐阜新聞にその記事は載りました。いや〜ビックリしましたね。「辞めさせる事が出来るんだ！？」ってね（苦笑）。個人的には昨年、一昨年も正直モヤモヤを抱えながら見ていましたが、今シーズン開始前にあの方の個人事務所とサポの間のトラブルを間近で見ていたので、嫌悪感が決定的になりました。
それからは正直顔を見たくもない、名前を出すのも嫌な状況だったので、今回の交代はとても嬉しい物となりました。（だから私的には成績云々は関係ないですね（苦笑））。
監督就任がＦＣ岐阜というチーム自体に光が当たるきっかけとなったのは素直に感謝しています。それは間違いないです。でもこのチームは俺たちのチームです。貴方のチームじゃない。
まだまだ残留に向けての苦境は続くでしょうが、前を向いて進んでいきましょう。（ヤックル）

●金沢戦の試合開始３時間半前。事前搬入をしていた時に「あれ、ラモスじゃないか？」との声。見ると、祈りを捧げながらピッチを歩いているラモス監督の姿が。「大事な試合の時に行う儀式」と耳にしていた行為。やはり、胸に期するものはあったのだろう…。
今でも裕福だとは思わないけれど、もっとクラブが貧乏で累積債務に苦しんでいて、そして県内での知名度も低かった頃、僕らは「ラモスが岐阜に来ないかな…」なんて話をよくしていたものだ。元・日本代表の１０番。Ｊリーグ創設以前からの名門・ヴェルディ川崎のスター選手。誰もが知っているサッ

カー選手と言えば、やはりカズかゴンかラモスかっていう単純な理由で、それは本当に冗談のつもりだった（笑）のだが、2014 年にホントに実現してしまった時は本当に驚いた。実際には、クラブの最大株主になったＪトラストの藤澤社長がラモス監督を招聘したのだから話は逆なのだけれど、これまで長年苦しみ、クラブライセンス最大の関門であった累積債務が遂に解消され、地元の政財界からの支援も強化され…今まで、クラブが本当に長年苦労しながらも果たせなかったことが、一気に上手く運んだ。そんな、夢のような感覚だった。
そしてラモス監督が、あるいは彼に誘われて元日本代表の川口能活や三都主アレサンドロも岐阜にやってきたことで、その注目度は一気に上昇した（ただし、磐田の黄金時代を支えたW杯経験者の服部年宏も、その２年前に岐阜に加入していたという事実を、あえて僕は主張しておきたい（笑））。
その後、恩田社長による「ぎふＪ１チャレンジ」活動の効果により、完全な専用にはならなかったけれど、待望の練習場とクラブハウスができた。2016 年からはＪ１クラブライセンスが交付された。こういったクラブを取り巻く環境整備には、やはりラモス監督の影響が少なくなかっただろう。わずか２年間での大きな変化には、今でも本当に感謝している。
ただし、監督としての役割に関しては、当初から若干の疑問符が付いていたように思う。１年目の 2014 シーズンは、ナザリト＆難波宏明コンビの活躍があったものの、終盤に５連敗をして 17 位。そして、人件費が大幅に増えたためクラブ予算は赤字に。２年目の 2015 シーズンは、序盤から６連敗などで最下位に沈み、なんとか 20 位でシーズンを終えた。そして３年目の今年。開幕２戦連続で０－４の大敗を喫した後に４連勝。しかし、徐々に調子を落として遂に５連敗…。
ラモス監督の目指すサッカーは、やはり天才肌のプレイヤーが目指すサッカーだったと思う。選手個々の能力に頼ったサッカーで、個々の能力が輝き合えば成果を上げるが、そうでなければ失速する…そして、それを改善する術を知らない。自分が天才だったが故に、それができない選手に指導ができない。あるいは、そういう戦術ができる高額の選手を欲する…現代サッカーの組織による戦術ではなく、個によるサッカー頼み。次々と選手を入れ替えるけれど、その評価が固定されている…。だから、２年半経った今でも戦術の“積み上げ”はないままで、それが相手チームに分析され、今の苦境を作り出してしまったのだと僕は思う。
長崎・水戸・金沢と下位のチームに３連敗しかも最下位の金沢にも負けたこと、そして対戦相手がアウェイで上位の札幌・清水と続くこと、これらを考えると、監督交替のタイミングとしては今がベストだったのかもしれない。そして、それを決断したフロントの判断が正しかったと僕は信じたい。そしてそれは、クラブが「今シーズンも残留争いをして、生き残る」覚悟を決めたという宣言でもあると思う。
新たに就任した吉田恵監督は、今もＪ１で組織的堅守を誇る鳥栖で５年間指導者を務めた人だ。その手腕に、僕は本当に期待している。そしてまた、吉田監督には是非とも長期的にチームを率いて欲しいと、クラブも任せてあげて欲しいと、切に願っている。
ラモス監督の時代は終わった。さまざまな功罪もあったことだろう。こうして様々な人たちが織りなす模様で、少しずつ、クラブの歴史は積み重なっていくのだろう。そして、これからも僕らは前を向いて歩き続ける。（ささたく）
●とうとう、この時が訪れた。ラモス瑠偉氏には感謝を述べたい。岐阜に来てくれてありがとう、と。彼が来てくれなければ、今の岐阜、少なくともＪ１ライセンスが認められるクラブにはなっていなかった。彼が来てくれたから、新規のお客さんを呼べる選手も加入してくれた。もちろん、彼自身のネームバリューは言うまでもない。いや、正直に言うと、ボク自身は彼のことを「過去の人」と思っていた。当時流行っていた言葉でいえば「オワコン」というヤツ。選手としての実績は非の打ちどころはない。しかし、ネルシーニョに師事し、東京Ｖ、京都、柏等を指揮したという指導者としても文句のないような肩書があるにもかかわらず、岐阜に来るまでどのクラブの指揮も取っていなかったという事実。レジェンドであるにもかかわらず、元のクラブのサポーターから尊敬と支持を抱かれていたようには思えない様子から、ずっと指導者としての能力には疑問を持っていた。だから、うわさが出た時「少なくとも、ウチには合わないよ。」と仲間と話していたワケだ。
しかし、現実となってからは応援しようと素直に思えた。なぜなら、彼もあれからいろんな経験を重ね、成長したかもしれないと考えたから。Ｊリーグではないにせよ、ビーチサッカーの代表監督も務めた。男子三日会わざれば括目して見よ。そんな言葉もある。期待と不安が相半ばしたまま、彼と新生ＦＣ岐阜を見てきた。そして、「あぁ、やっぱり……。」と思ったのは最初のシーズンの長良川での熊本戦。前半で２点リードしたにもかかわらず、熊本に追い上げられるという展開の中で、彼が決断した選手交替。その瞬間に、自分の中で何かが音を立てて崩れたように思う。三つ子の魂百まで、かと。もしかすると、彼は自分の中にある考えを選手に伝えるのが不得手なのかもしれない。そして、負け数が多くて引き分けが少ない岐阜を見るにつけ、カリスマ性を持ってはいるけど選手のモチベーションを高める術は持ち合わせていないのかな？とも思った。今季のＰＳＭと開幕後の２試合を目の当たりにして、過去２年間の積み重ねどころか、何のための沖縄キャンプだったのかもわからない状況しか作れないようでは、もはや限界は見えていた。
繰り返しになるけれど、ラモス瑠偉氏には感謝している。彼が来てくれなければ、岐阜はＪ２どころかＪリーグのライセンスすら失くしていたかもしれない。彼にとっても岐阜以外のクラブなら、彼の持ち味が生かせたかもしれない。今後の活躍を祈っています。そして、決断を下したフロントには敬意を表したい。時期的にどうなのか？という思いはある。もしかしたら、開幕３戦目の北九州戦に負けていたら、もっと早い決断があったかも？とも思う。あくまで妄想に過ぎないけれども。リーグ戦の折り返しを過ぎてからの交替。吉田新監督にとっても厳しい状況だと思うし不安はあるが、なんとか結果を出してほしい。そのために、これからも出来る限り現地で応援していく。共に闘いましょう！（ぐん、）
●「色々と面白いチームだなぁ。いつかまとめて本にして一発当てるから」（意訳）。数年前のとあるトークイベントでの、某パネラーの一言である。
それを聞いた私は「いや、流石に一発当てるほどの事はそんな起きないから（そんなにあっても困るし！）」と突っ込んだのだが、はてさて、Ｊ２に昇格してから２度目のシーズン途中での監督交替である。
確かに私が応援を始めた２００８年から、このクラブは色々あった。長く続いた資金不足にほぼ毎年の残留争い、債務超過のメドが立ってこれからという時に、恩田元社長のＡＬＳ発症……。確かに、ゴシップ記事風にクラブヒストリーをまとめたら、如何様にも面白おかしく書けるだろう。大衆がそれを望んでいるかは、また別の話だが。（どうせなら普通にまとめてもらいたい）
ラモス前監督には、個人的に思う所は何もない。ファンイベント等に参加出来ない自分は、伝えられるイメージ以外で何某かの感慨を抱く要素がまるでないからだ。強いていえば、選手の個の力を伸ばして１対１で何とかしてこいチームでは、組織で戦うチームの多いＪ２ではどうしようもなかったという感じだ。ただ、過去とても偉大な選手だったのは疑いようもなく、集客増や広告塔としてはこれ以上にない人物だったと思うし、ＦＣ岐阜に多大な貢献をしてくれたのは間違いないだろう。後を引き継いだ吉田監督には、本当にもうあれこれ申し訳ない気持ちで一杯だが、とにかく頑張って欲しいし、応援したいと思う。
さて、ここからは本当に個人的な意見だ。ＦＣ岐阜を応援する

紳士淑女の皆さんなら、このままいけばまた残留争いに、不本意ながら加わることを予想されているであろう。ＡＣ長野パルセイロに足を向けて寝れない、あの闘いだ。今回もいつも通り、得失点差を無視して勝ち点をとにかく積み上げなければならない。最近応援するようになったという方は、#アキラメナイや#トモニタタカウ、#ダサンダーあたりをツイッターで検索してみると、過去いかようにしてサポーターが残留争いを乗り切ってきたのか分かると思う。一番やって欲しくないのは「絶対●留」などと書かれたダンマクやゲーフラを出すことだ。私の経験則では、この言葉を出したチームはもれなく降格しているし、過去の残留争いでＦＣ岐阜はこの言葉を具現化してはいない。いままで通り前向きな言葉で、選手を鼓舞し続けて欲しいと切に願う。
残念ながら我々に出来ることは、正直そんなにない。でも、試合に足を運ぶ・スカパー！のＭＹクラブにＦＣ岐阜と登録する・グッズを買う・クラブの企画に積極的に乗っかる・選手を様々な形で後押しする……その小さな積み重ねを集約し、各スポンサー様からの支援を賜り、クラブは成り立っている。こんな時だからこそ、選手を温かく、熱く応援し、今シーズンを笑顔で終わりたいと思う。
いつか、平穏無事にシーズンを終えられるのかなぁ。でもそれじゃあＦＣ岐阜っぽくないな。とはいえ一発当てられると気分が悪いから、その時はＦＣ岐阜文芸部でも立ち上げてクラブヒストリーをまとめましょうか？　サポーター目線とはいえ、皆さん結構色々とネタ持ってますよね？（笑）　と戯れ言を並べたところで、失礼させていただきます。
『思いはひとつ 願いも一つ energy to communication』！
（白河紫苑）
●ラモス時代の２年半をどう振り返るか……と考えた時に、『ラモス時代』という表記しか出来ないことに気がついた。それは、彼が『クラブ』にもたらしたものと『チーム』にもたらしたものがまったく異なるからだ。別々に考えないといけない。
まず、ラモス氏が『クラブ』にもたらしたものを考えてみると、ポジティブな要素がほとんどだ。「たかが」ＦＣ岐阜の新監督就任記者会見が民放地上波で生中継されるなんて、考えられなかったことだ。著名な元・日本代表選手も移籍してきた。スポンサーも増え、観客も増えた。『岐大通』の配布枚数も増えてぼくらの仕事も大変になった。実際、ラモス氏の更迭発表のニュースでさえ、全国をすばやく駆け巡ってネットのニュースサイトでもヘッドラインの上の方に掲載され、彼の名前の『影響力』の広さを見せつけてくれた。
クラブハウスも作られ、クラブはＪ１ライセンスを得るまでになった。本当に、彼が来るまでは考えられなかったことだ。「すべてがラモス氏の功績ではない」ことはわかっているが、彼の就任が『クラブ』に対してポジティブな導火線になったことは間違いない。その点では、いくらでも感謝出来るし、その功績は決して否定してはいけない。
しかし、『チーム』にもたらしたものを考えてみると、これはもう「限りなくゼロに近い」。小数点以下何ケタで四捨五入してもゼロになるけど“数としてはゼロではない”、というくらいに小さいものだった、と捉えていい。まず、彼は『チームプレー』を作らなかった。ぼくの好きなアニメの科白に「我々の間には『チームプレー』などという都合のいい言い訳は存在せん。あるのは『スタンドプレー』から生じる『チームワーク』だけだ」というのがあるが、実はこの考え方はサッカー・チームの“理想像”でもある。ラモス氏が「１対１」という言葉を多く用いたのも、実際に「１対１」はすべてではないけれど、現代サッカーにおいてもとても大事な概念であるのも間違いない。「１対１」、つまり１人の選手が１人の選手に対応するのだから、それは『スタンドプレー』だ。そこで、味方選手が対峙した選手をどう処理するか、まかせることが出来るから、他の選手は「では自分は彼が相手を処理した時にどういう動きをしていけばいいか」自分で考え、行動する。これも『スタンドプレー』だ。その積み重ねが『チームワーク』として顕になる。どうです、“理想的”なサッカー・チームでしょう。
でも、そんなサッカー・チーム、世界にいくつありますか？という“現実”。どうだろう、ぼくは2014のブラジルW杯の準決勝でのドイツ代表くらいしか思いつかない。だから、世界のほとんどのサッカー・チームの監督は、そんな“理想”を捨てて『チームプレー』に活路を見出そうとする。日本代表・岡崎慎司が在籍し、昨季に「奇跡」とも言われたクラブ創設132年でイングランド・プレミアシップを制した「レスター・シティ」。どこかで読んだが、「レスターが創設から132年間で使った選手獲得費用」が「マンチェスター・ユナイテッドが２年間で使った費用より少なかった」という話は衝撃的だった。選手の価値が「費用」とある程度比例するのは当然であり、ならばレスターはなぜ優勝できたのか。『チームプレー』を研ぎに研いで戦いに挑んだから、に他ならない。
さて、我らがＦＣ岐阜について振り返ってみよう。１年目の2014年。元・日本代表が何人も（というか何人か）移籍してきて話題をさらった。しかし、実際のところ「代表を離れて何年も過ぎた」選手に、『スタンドプレー』を求めて結果が出せるほど、現在のJ2リーグは甘くない。選手が入れ替わるクラブチームで『チームプレー』の密度を上げていくには、そもそも『クラブ』が確立した『チームプレー』を保持していて、それに選手が対応するか、あるいは入れ替わって一度壊れた『チームプレー』を練習で修正し積み上げていく。だから、大抵のチームはシーズンが進むに従って「出来なかったことが出来るようになって」いく。
ＦＣ岐阜にはそれがなかった。なにせ監督が『チームプレー』を作らない（あるいは、作れる『チームプレー』のビジョンがない）のだから、選手の「１対１」能力の足し算でチーム力が算出出来てしまう。だから、「算出は出来ても、対応は出来ない」という選手が結果を出し続けることでしか、チームも結果を出せない。2014年のナザリト、2015年のレオミネイロ。ラモス氏が（沖縄かりゆし時代からの長い縁がある）髙地に全幅の信頼を寄せているのは試合を観ていればわかることだが、もしかしてラモス氏は「髙地はトシを取らない」とでも思っていたのだろうか。チームの戦闘力を『個』の「足し算」でしか上げられない、たとえ1.05倍でも、『チームプレー』という「掛け算」が作用すれば、多少は違った結果が出せたはずだ。
１試合だけ使っただけで見捨て、ぼくらは「そんなにコンディションが悪いのか……」と思っていた（練習はそんなに視に行けないし非公開も多い）秋葉勝が金沢にレンタルで“出戻り”したすぐの試合で先発フル出場し、金沢サポが「パスまわしが５割増になった」と喜んでいるのを知り、秋葉が「コンディション不良で使われなかったわけではない」ことをぼくらは知った。保有する“資源”が少ないローカルなサッカー・クラブで、その使える“資源”を使うこともなく、それで結果が出せるのならともかく結果も出せない。更迭は当然だ。遅過ぎた、かもしれない。実際、開幕２連戦を続けて0-4で落とすという大失態を演じた今季、「第３節の北九州戦も落として３連敗したら解任になるんじゃないか」という“噂”も一部で広まったが、その北九州戦に勝利してからの４連勝でその“噂”は蒸発した。その意味では北九州の罪は重い（笑）……というのは冗談だが、北九州戦で何が変わったかというと、そこには開幕２試合ではカケラも姿を見せなかった『チームプレー』があったから。システムを含めた試合内容のあまりの変貌に、ぼくを含め観戦仲間は「ラモス氏はチーム指揮権を剥奪されたのではないか」と話していたものだ。果たして、あの変貌が「ラモス氏から吉田氏への指揮権移譲」に拠るものなのか、これからの戦い方で見えてくるだろう。更迭は遅過ぎたが、まだ「手遅れなほど遅過ぎた」わけではない。そう信じたい。（吉田鋳造）

FC岐阜 2016 応援曲(チャント)・コール集

LastUpDate 16/08/07

■チームコール【試合開始前】

※試合が始まります。みんなで手拍子をしてスタジアムを盛り上げましょう。

オーイ！●●●、オーイ！●●●、
オイ！●、オイ！●、オーーフォルツァ岐阜！

■チームチャント【選手入場時】

※タオルマフラーや旗、ゲートフラッグ等を掲げて選手を迎えましょう。

■日曜日よりの使者(ザ・ハイロウズ/日曜日よりの使者)
We are 岐阜　We are THE GIFU ラララー ララララー
We are 岐阜　We are THE GIFU ラララー ララララー(ギ・フ！)

■チームコール

1)　エフ！　シー！　ギフッ！！●　●　●●●
2)　ゴール！　ゴール！　エフシぎっふ！●●
3)　ウィー！　アー！　岐阜！●●　●●　●

■チームチャント

■FC岐阜 We Love You (水森亜土/すきすきソング)
オッオッ オーオォ　オッオッオーオォ　オォオォオー　(FC岐阜！)　※繰り返す
FC岐阜　FC岐阜　We Love You (オイ！オイ！オイ！オイ！)

■エンターテイナー(S.JOPLIN/The Entertainer)
オー　オォーオォーオォー　Oh　エフシ岐阜アーレー
オー　オォーオォーオォー　Oh　エフシ岐阜アーレー
さぁ　胸を張って　戦おうぜ　緑の勇者(ゆうしゃ)　アーレー

■チームチャント(仮称)
ララ　ラ　ラララララ　ララララララララララー　オォオー

■ナダレ(Vago y Atorrante)
バモ岐阜バモ　友よ　さあ行こう　ナダレろ　暴れろ　われらと
熱い気持ち　バモ岐阜バモ　いざ　今戦おう

■誇り胸に(Hay che bostero)
俺達が　共にいる　どんな時も　お前と
今ここで　みせろ岐阜　誇り(ほこり)胸に　戦え

■漢なら(オリジナル)
共にいこうぜ　われらと　ラララ ラーラーラ ラーラー
共に闘え(たたかえ)　われらと　ラララ ラーラーララー
勝利をつかめ　きみが漢(おとこ)なら
バモ　バモ　GOLAZO(ゴラッソ)！　ラララ ラーラーララー

■我ら岐阜(İsmail Hakkı bey/トルコ軍隊行進曲：Ceddin Deden)
WE ARE GIFU　WE ARE GIFU　ララーラ　ララララー
おお友よ　いざゆかん時が今ここに　さぁ誇り(ほこり)高き　われら岐阜

■ラララ岐阜(フライブルク)
ラーララーラーラー　ラーララーラーラー
ラーララーラーラー　ラーララーラ　ラーラーラ　岐阜！

■アツく闘え
オーオー オォオ 友よ　さぁ　俺達と とーもーにー
オーオー オォオォ 友よ　アーツく 闘えー

■Boys In Green(Basshunter/I can walk on walter, I can fly)
魂(たましい)尽きる(つきる)ーまで　駆けろ(かけろ)星へ友よ
勇気(ゆうき)胸にー抱き(だき)　信じてーいるBoys In Green
(＊)最初はこの歌詞で拍手し、次は「ラ」で歌い跳ねる。繰り返し

■俺たちと共に(オリジナル)
オーオー　エフシー岐阜　おーれーたーちと　とーもにー
オーオー　エフシー岐阜　すべてをかけー　たたかえー

■得点時チャント

■ゲットゴール！！
ラララーララ　ラーラー　ラララー　ラララーララ　ラララー　ラーラー
ラララーララ　ラーラー　ラララー　ラララーララ　ラララー　(ゲッ！タ！ゴール！)

■俺らは歌う
ラララ俺らは歌う　岐阜の誇り(ほこり)胸に
友の勝利を信じ　熱く声を響かせるのさ

■ザンクトパウリ
ラララーラ ラーラ ララ　ラララーラ ラーラ ララ
ラララーラ ラーラ ララ　フォルツァ 岐阜 フォルツァ 岐阜

■ケルン
オーオーオオ　オーオーオー　オーオーオオオ　オーオーオ
さあ行こうぜ　We Are GIFU　しょーりつーかもう　とーもにー
(＊)歌詞と「オ」で歌うフレーズは、それぞれ2回ずつ繰り返す。

■アレアレ岐阜アレ
アレアレアレ岐阜アレー　アレアレアレ岐阜アレー
アレアレアレー　アレアレアレー　アレアレアレ岐阜アレー

■負けられない戦い(PET SHOP BOYS/Go West)
オーオー！　バモ岐阜　オレ　オーオー！　バモ岐阜　オレ
負けられない戦い　魂(たましい)込め　戦え

■情熱を胸に(オリジナル)
燃えたぎる情熱(じょうねつ)をー　その胸に持ち　戦え
恐れず(おそれず)　前を向き　ゴールを奪え(うばえ)ー

■アレ岐阜
アレアレー アレアレー　アレアレ岐阜アーレー
アレアレー アレアレー　アレアレ岐阜アーレー

■FORZA　FC岐阜
ラーラ　ラーララーラ　ラーラー　ラーラ　ラーララーラ　ラーー
フォルツァ　FC岐阜！　フォルツァ　FC岐阜！
フォルツァ　岐阜　フォルツァ　FC岐阜！

■SUNRIZE GREEN(LINDBERG/SUNSET BLUE)
行け　行け　われらが　FC岐阜
We are GIFU, We love GIFU, Let's Go！　FC岐阜
行け　行け　われらが　FC岐阜
支え続けーるから　(オイ！オイ！オイオイオイオイ！)

■勝利のチャント ※試合に勝った喜びを、高らかに歌いましょう。

■アイーダ(凱旋行進曲)(Giuseppe Verdi/Grand March (from aïda))
オーオー オォオオッオッオッ オォオオーオオー オォオーオオー
FC岐阜！　FC岐阜！　FCぎーーーっふ！

■俺らの誇り【アイーダ→万歳四唱からのつづきで】
オーォ オーォ　俺らの誇り(ほこり)　オーォ オーォ　岐阜の誇り(ほこり)

■シャナナ(MINMI/シャナナ)
ラララララララー　ラーラー　ラーラーラー　(岐！阜！)
ラララララララー　ラーラー　ラーラーラー　(岐！阜！)

■勝利の賛歌(オリジナル)
WE ARE GIFU　共に　われらは 歌う
WE ARE GIFU　ここに　勝利の賛歌(さんか)を
緑の友を　われらは誇り(ほこり)
歓喜(かんき)の叫びで　大地よ震えろ(ふるえろ)
勇ましき(いさましき)　われら岐阜　絆(きずな)よ　永久(とわ)に　オーオー

■選手コール・チャント

※ポジションは実際とは異なる場合があります。

1 GK 常澤 聡(ときざわ さとし)【ときざわ！ ●●●】
常澤　ラーララ　ラーララ　オオ常澤
2 DF 阿部 正紀(あべ まさのり)【まさのり！ ●●●】
おれーたーちのー　阿部正紀　勇気胸に　行こうー正紀

4 DF 岡根 直哉(おかね なおや)【おかね！ ●●●】
岡根直哉　アレアレ　岡根直哉　アレアレ
燃えたぎる　その熱い気持ちで　俺たちの岡根アレ
5 MF 青木 翼(あおき つばさ)正式加入【つばさ！ ●●●】
6 MF 高地 系治(たかち けいじ)【たかち！ ●●●】
オーォオーー高地系治オーォオー　オーバモ高地　魅せろオーォオー
7 MF 田中 パウロ淳一(たなか ぱうろじゅんいち)新加入【パウロ！ ●●●】

9 FW エヴァンドロ(Evandro)新加入【エ！ヴァン！ドロ！ エ！ヴァン！ドロ！】
10 MF レオナルド ロシャ(Leonardo Rocha)新加入
【レ！オ！ロシャ！ レ！オ！ロシャ！】
11 FW 遠藤 純輝(えんどう じゅんき)【ジュンキ！ ●●●】
え・ん・どーう！　ダンガン純輝　さあ行こうー
ゲッ・ト・ゴール！　ダンガン純輝　オーオーオー
14 MF 風間 宏矢(かざま こうや)完全移籍【こうや！こうや！●●●●】
こうやー　こうやー　アレ風間宏矢
15 MF 田森 大己(たもり だいき)新加入【たもり！ ●●●】
17 DF 野垣内 俊(のがいと しゅん)【のがいと！ ●●●】
オーオー　野垣内俊　共に どこまでーもー
オーオー　野垣内俊　いこうぜ　ララララーラー
18 DF 冨士 祐樹(ふじ ゆうき)【ふ！じ！ゆうき！●●●●】
19 MF 益山 司(ますやま つかさ)【つかさ！ ●●●】
益山司　オー オォォ オーオー　俺らの司　岐阜の司
20 DF 鈴木 潤(すずき じゅん)正式加入【すずーきじゅん！ ● ● ●●●】
21 GK 高木 義成(たかぎ よしなり)新加入【よしなり！ ●●●】
22 GK ポープ ウィリアム(William Popp)期限付移籍
【ウィ！リ！アム！　ウィ！リ！アム！】
23 MF 小野 悠斗(おの ゆうと)【おのゆうと！オレ！ ● ● ●●●】
24 FW 難波 宏明(なんば ひろあき)【なんば！ ●●●】
オーオーオレオー 難波 オレー 駆ーけー抜けろ 難波 ゲットゴール
27 MF 苅部 隆太郎(かるべ りゅうたろう)【かるべ！ ●●●】
28 MF 水野 泰輔(みずの たいすけ)【たいすけ！ ●●●】
咲き誇れ　泰輔　俺達のファンタジスタ　水野泰輔　魅せてくれ泰輔
29 FW 鈴木 ブルーノ(すずき ぶるーの)新加入【ブルーノ！ ●●●】
30 DF 田代 雅也(たしろ まさや)新加入【まさや！ ●●●】
32 MF 小川 雄大(おがわ ゆうだい)【ゆ！う！だい！】
33 FW レオミネイロ(LEOMINEIRO)期限付移籍【レオーミネイロ！ ● ● ●●●】
オー！レオ　ゴーーーール
レオミネイロ　ゴール　レオミネイロ　ゴール　レオミネイロ　ゴォーォール
34 FW 田中 達也(たなか たつや)期限付移籍【たつや！ ●●●】
35 DF 磐瀬 剛(いわせ ごう)期限付移籍【いわせ！ ●●●】
36 FW 瀧谷 亮(たきや りょう)新加入【たきや！ ●●●】
36 MF 崔 誠根(ちぇ そんぐん)期限付移籍 ※NEW！
【チェ！ソン！グン！　チェ！ソン！グン！】